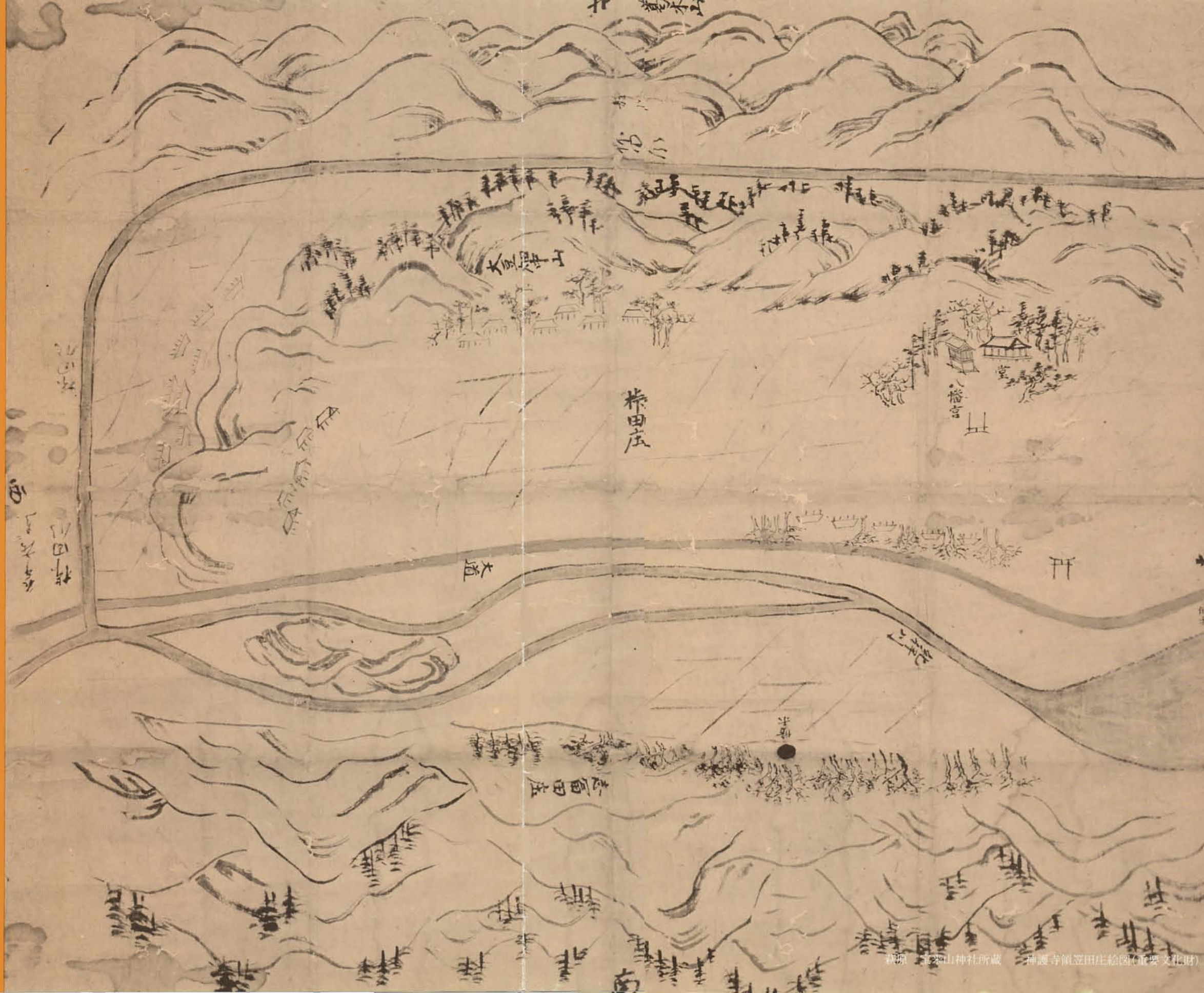


かつらぎ町史

全四卷



かつらぎ町史

全四巻

第一回配本 古代・中世史料編 発刊のお知らせ!

● 広範囲にわたる史料を収録

本書は、かつらぎ町域に関係する古代・中世の主要な文献史料(文字で書かれた史料)約一一〇〇通を収録した本格的な史料集です。収録の下限は、天正一九年(一五九二)に実施された太閤検地(天正検地)の直前までとしました。古代史料は伊都郡全域の動向を示すもの、中世史料は町域に関係する庄園の変遷・構造を示すものにそれぞれ主眼を置いて編集しています。このほか、『万葉集』『日本霊異記』『今昔物語集』など文学作品もできり取り収めています。

● 庄園史料を集大成

町域に関係する庄園には、官省符庄・四郷・笠田庄・洪田庄・六箇七郷の五つがあり、かつらぎ町のすべての地域がいずれかの庄園に属していました(左図 参照)。本書では、それぞれの庄園に関する史料を、庄園別に年代順に配列して、利用しやすいようにしています。いくつもの庄園にかかわる史料は、古代史料とともに、「一般編年」の部に配列しています。

● 多数の新史料を掲載

高野山御影堂文書のうち、官省符庄と洪田庄の検注帳(土地台帳)を本書で初めて活字にしました。一四世紀末に官省符庄で実施された大規模な検注(土地調査)にもとづく史料を約三〇〇ページにわたって収めています。官省符庄下方(町域の河北部で、大字佐野・広浦から東の地域)のすべての村の土地台帳がそろっています。洪田庄の検注帳には、建武五年(一二三三)、正平二年(一二五六)、長享三年(一四八九)のものが残されており、時期を隔ててこれだけの検注帳が残されているのは全国的にも珍しい例です。このほか、笠田庄や四郷に関して、これまであまり知られていなかった史料を掲載しています。また、短野区文書や滝区文書など地元で伝来している中世文書も数多く収録しています。

● 各家庭必備の史料集

歴史の事実を正しくつかむためには、根拠となる史料が必要です。本書では史料の厳密な校訂を行っており、この史料集の価値は半永久的なものであるといえます。全国に誇りうる町史の史料編であると自負しております。

本書は限定出版であり、部数に限りがあります。あなたの愛蔵書として、子や孫に残す家宝として、この機会にぜひご購入ください。また、かつらぎ町を離れている方々にも、ふるさとの歴史と文化の香りを伝える書物としてお勧めください。

続刊

- 第二回配本 近世史料編
- 第三回配本 近代史料編
- 第四回配本 通史編



かつらぎ町域を中心にした庄園分布図



柏木区所蔵 高野柀(重要文化財)

かつらぎ町史編集委員会(一九八三年四月一日現在)

- | | |
|------|----------------------|
| 委員長 | 渡辺 広 (和歌山大学名誉教授) |
| 副委員長 | 小山 靖 憲 (和歌山大学教授) |
| 委員 | 井 笹 勝 蔵 (元 橋本中央中学校長) |
| ” | 岩 倉 哲 夫 (伊都高等学校教諭) |
| ” | 後 藤 正 人 (和歌山大学助教授) |
| ” | 下 村 克 彦 (笠田中学校教諭) |
| ” | 東 穀 毅 (妙寺中学校教諭) |
| ” | 前 田 一 郎 (紀の川高等学校教諭) |
| ” | 牧 田 一 子 (元 奈良女子大学助手) |
| ” | 溝 端 明 治 (元 九度山小学校長) |
| ” | 山 陰 加 春 夫 (高野山大学講師) |
| 参 照 | 山 本 智 教 (高野山霊宝館長) |
| 与 問 | 熱 田 公 (神戸大学教授) |
| ” | 大 谷 正 (専修大学講師) |
| ” | 中 野 栄 治 (向陽高等学校教諭) |
| ” | 日 野 西 真 定 (高野山大学助教授) |
| ” | 山 中 永 之 佑 (大阪大学教授) |

● 本の体裁

A5判 上製本 一一七二ページ 貼箱入
頒布価格 五〇〇〇円

● 問い合わせ

〒649-7192

和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町二二六〇
かつらぎ町役場内

かつらぎ町史編集委員会事務局
(役場南別館二階)

電話(〇七三六二)二一〇三〇〇

郵便振替口座

00910-5-314714

(加入者名 かつらぎ町役場)